



オカガニ *Cardisoma hirtipes*

分類：エビ目オカガニ科

大きさや特徴：甲幅約 5cm。普段は陸性、幼生時代を海で過ごす。甲が著しく硬い。

分布：太平洋諸島、国内ではトカラ列島以南に生息。

調査地域での生態的地位：典型性。

食性：雑食性。

活動場所：主に海岸近くの陸地。

繁殖場所：波打ち際や、砂浜等。

重要種指定：-

沖縄での本種の出現時期 (●繁殖時期)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
○	○	○	○	○	●	●	●	○	○	○	○



オカガニ抱卵個体



オカガニの放仔が確認された豊原区の海岸

- 平成 20 年度調査では、オカヤドカリ、コムラサキオカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、ヤシガニ、ミナミオカガニ、オカガニの 7 種の繁殖(放仔)行動が、調査範囲全域において確認されました。また、種の識別に至らなかったオカヤドカリ類についても、繁殖を確認しました。繁殖は 7~8 月がピークであると考えられました。また、他調査時に上記の 7 種に加え、オオナキオカヤドカリとヤエヤマヒメオカガニの計 9 種の生息が確認されました。

〈食物連鎖例〉

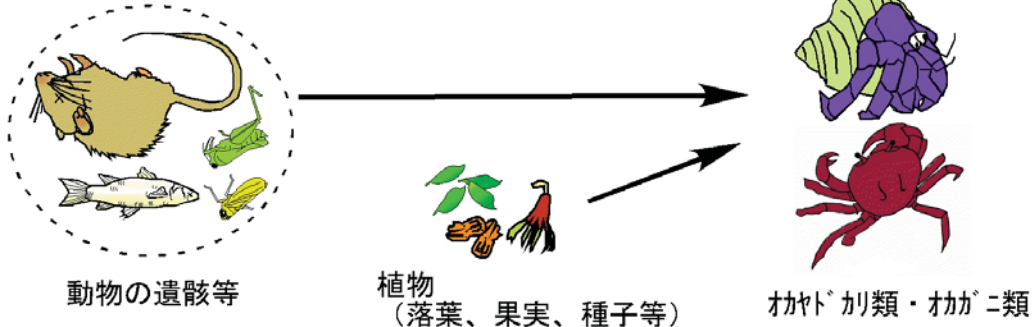


図-6. 19. 2. 1. 4(9) 各注目種の一般生態

(典型性 オカヤドカリ類・オカガニ類その 3)



オリオオコウモリ

Pteropus dasymallus

分類：翼手目オオコウモリ科

大きさや特徴：前腕長 130～147mm、体重 337～583g
で夜行性。

分布：沖縄島と、その周辺の小島に生息する。

調査地域での生態的地位：典型性

食性：植物の葉や果実。

活動場所：日中は、樹木の高い枝で休息する。

繁殖場所：樹林地。

重要種指定：沖縄県 NT

沖縄での本種の出現時期(●出産・育児期 ●交尾期)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
○	○	○	○	○	●	●	○	●	●	○	○



食痕 (ペリット)

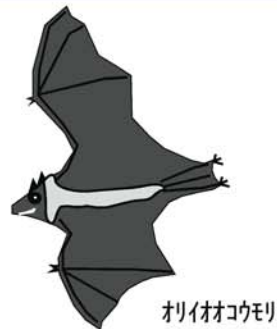
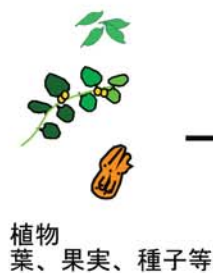
代表的な生息環境



辺野古区

- ・平成 20 年度調査では、動物調査時に計 575 個体が確認されました。夏季の鳥類調査時に汀間川河口左岸で子供を抱いて飛翔する個体を確認しましたが、交尾等の直接的な繁殖行動は確認されませんでした。
- ・本種の好適生息環境である樹林地や餌となる植物は、調査範囲内に広く存在します。よって、直接的な繁殖行動は確認されませんでした。調査範囲内及びその周辺で繁殖を行っている可能性が考えられました。

〈食物連鎖例〉





沖縄島にて撮影

オヒルギ *Bruguiera gymnorhiza*

分類：ヒルギ目ヒルギ科

大きさや特徴：高さ 10m になる常緑の高木。樹幹にたくさんの皮目がある。呼吸根は地表面に屈曲して膝状に飛び出す。花は赤い萼が目立ち、その裂片は 11~12 枚。葉は厚く、先端はとがり、内部に多量の塩分を含んでいる。典型的な胎生種子。

分布：主に奄美大島以南の琉球列島から、東南アジアの熱帯地域に分布。

調査地域での生態的地位：特殊性。

生息場所：遠浅の汽水域に生息。

重要種指定：-



沖縄島にて撮影

メヒルギ *Kandelia candel*

分類：ヒルギ目ヒルギ科

大きさや特徴：高さは 5m 程度の低木。根は板根状になる。葉は厚く、端は丸い。花のがく片裂片と花びらは白色で 5 枚。典型的な胎生種子。

分布：オヒルギに準ずる。

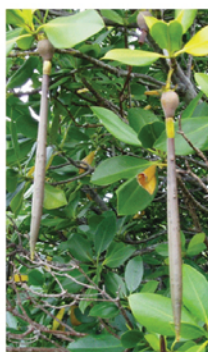
調査地域での生態的地位：特殊性。

生息場所：遠浅の汽水域に生息。

重要種指定：-



オヒルギの種子



メヒルギの種子



大浦川のマングローブ林

図-6. 19. 2. 1. 4(11) 各注目種の一般生態(特殊性 マングローブ林その 1)



沖縄島にて撮影

オキナワアナジャコ

Thalassinia anomala

分類：エビ目オキナワアナジャコ科

大きさや特徴：体に毛はほとんどなく、第1・2胸脚は不完全なはさみ状。第1胸脚は左右不同。体長20cm程になる。

分布：東南アジア、インド洋。国内では奄美大島以南。

調査地域での生態的地位：特殊性。

食性：泥内の有機物等。

活動場所：マングローブ湿地の泥底に穴を掘って住み、高さ1m程の巣塚を作ることがある。

繁殖場所：活動場所と同様。

重要種指定：-



林床と水路とオキナワアナジャコの塚 (オー川)



林床の状況 (大浦川)



林床に落葉の堆積がある (松田慶武原川)



オヒルギ根元に形成された微窪地 (宜野座福地川)

- ・汀間川、大浦川、オー川、松田慶武原川、宜野座福地川の河口部に分布するマングローブ林において、植生状況の確認、及び底生動物、魚類・底質分析の調査を実施しました。
- ・平成20年度調査では、魚類124種、昆虫類12種、甲殻類141種、貝類70種、その他ゴカイ類等33種、維管束植物126種が確認されました。
- ・重要種は、魚類11種、甲殻類21種、貝類33種の計65種が確認されました。
- ・底質分析は強熱減量1.8~19%、主な粒度組成はシルト~中礫、赤土濃度76~1300kg/m³、COD1.7~120mg/g、硫化物0.01~1.9mg/g、含水比18.3~78.1%、密度2.264~2.723g/cm³でした。

図-6.19.2.1.4(12) 各注目種の一般生態(特殊性 マングローブ林その2)